

研究実施状況報告書

平成 31 年 4 月 2 日

長崎県立大学長 様

研究責任者 所 属 看護栄養学部
職 名 教授
氏 名 田中一成



受付番号 372	承認番号 359
I 課 題 ミカン混合発酵茶葉粉末摂取の冷え性改善に関する研究 (2)	
II 研究期間及び調査期間 研究期間 30 年 12 月 8 日 ～ 30 年 12 月 16 日 調査期間 年 月 日 ～ 年 月 日	
III 研究の実施状況（該当項目にチェックしてください） <input checked="" type="checkbox"/> 研究計画書どおり研究が終了した（公表方法：学会発表、学術論文） <input type="checkbox"/> 研究計画書どおり研究を実施した <input type="checkbox"/> 研究計画を変更して研究を実施した 変更審査申請書提出（ 済 ・ 未 ） 変更内容： 変更理由：	
IV 今後の研究の概要（研究が継続の場合）	
V 研究結果の概要（研究が終了の場合） ミカン混合発酵茶摂取は、冷水負荷後の皮膚表面温度を効果的に高めたことから、冷え性改善に効果を有することが明らかになった。	
VI その他報告すべき事項	

※V研究結果の概要については別紙での提出も可

ミカン混合発酵茶葉粉末摂取の冷え性改善に関する研究 (2)

ミカン混合発酵茶葉粉末が、冷え症を改善する効果を有することが明らかになった。

(1) 研究成果の詳細

① 試験研究方法および実施状況

12月に冷え症改善に関するヒト試験を実施した。

② 得られた研究成果

1分間15℃の冷水に手首まで浸す負荷を44名の被験者で実施し、プラセボ摂取に対して40mgのヘスペリジンを含むミカン混合発酵茶摂取で、皮膚表面温度が有意な有意に上昇することが観察された(図1)。

③ 考察

40mgのヘスペリジンを含むミカン混合発酵茶葉粉末摂取は、冷え症を改善する効果が観察されたことから、本飲料は強い血流改善効果を有していると考えられる。

(2) 図

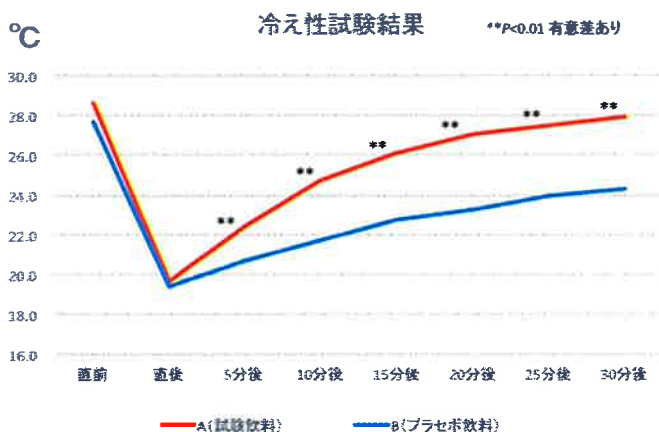


図1 冷え症の自覚症状がある被験者のミカン混合発酵茶摂取が皮膚表面温度に及ぼす影響